

日程：2020年1月30日、31日 各部会

2月1、2日 総会

場所：ローザンヌ、スイス

総会参加国：ブラジル、ブルガリア、チェコ、フィンランド、フランス、ドイツ、イタリア、イラン、日本、北マケドニア、ノルウェー、ポーランド、ポルトガル、ルーマニア、セルビア、スロベニア、スイス、台湾、イギリス、アメリカ合衆国。

委任：オーストリア=>ドイツ、デンマーク=>フィンランド。

FAI 関連

- 1) FAI の財政状況が悪く、事務局員を削減。メンバーシップ年会費を10%値上げ。
- 2) FAI はこれまで各委員会 (ASC) に相談することなく、物事を決定してきたが、これは円滑な運営を妨げてきた。FAI の役割を、原点に回帰し、各委員会と緊密な情報交換をして記録公認、大会公認に注力する。
- 3) WAG に関して、トルコ内部の問題で、中止となった。場所はトルコで2020年の予定であったが、諸般の事情で2022年開催となったがさらに2023年に延期の希望が出されたため、FAI として、これ以上先延ばししても開催が確約できないと判断した。
- 4) FAI 役員 (カテ1大会のジャッジ、スチュワード、ジュリーなど) はFAI がかける保険でしっかりとカバーされる。これはカザフスタンで開催されたPGアキュラシーアジア選手権のテストイベントでFAI 役員で参加していた者が交通事故にあい、治療費、救済費用を保険で手当てするのにかなりの困難に遭遇したため、問題が露呈し、それを改善するため。
- 5) FAI はドバイのWAGの成功からマルチイベントを、メディアに売れるものとするのを企画してこの数年間で多大な投資したが、失敗。財務状況を悪くした。
- 6) SLデータベースは6年も経過したが未だ満足に活用されるレベルに達していない。

CIVL 全体

- 1) 公認大会申請管理システム (AMS : FAI 公認申請を電子的に管理するシステム) は2019年中頃から稼働している。JHFからの意見では、慣れるまでに少し時間がかかりそうとのこと。
- 2) 大会管理システム (EMS : AIRTRIBUNE のようなもので、大会の案内、オンラインエントリー、FAI スポーティングライセンスのチェック、大会結果のアップロード、WPRSポイントの計上などをするソフト) は、FAI と取引をしているウクライナの Noosphere に発注してみたが、非常に複雑で誰でも使いこなせる代物ではなかったため他に発注する方向。既にイタリアの AIRSCORE というサイト (<https://airscore.legapiloti.it/>) が非常によくできたものを立ち上げているので参考にする。しばらくは現在のFSを延命する方向だが、ようやくパッチワークではなく、すっきりと統合されたスコアリングを含めた大会管理システムが出来上がりそうな予感がする。
- 3) 財務報告と予算案は承認された。ただし、2018年度はライブトラッカーを購入したり、アキュラシーのAMDシステムを購入したりと支払いが収入を上回っているが、まだ蓄えがあり債務超過とはなっていないが、今後もEMSを含めた支出が多くなると予想されるので、収支のバランスに十分気を付ける必要性が強調された。

4) カテ1大会で参加人数が参加枠を上回った場合の、選手選考方法をS7I (Guidelines and Template) に追加する提案は承認された。

5) S7共通3. 1項-カテ1大会の公認料に関して、現行の、参加パイロット枠1人、フライト日1につき3. 2ユーロを4. 5に値上げする。また現行に存在する上限(世界選で5, 120ユーロ、大陸選で3, 200ユーロ)を取り払う(理由: これまでの公認料では、CIVLが支払う費用を賄うことが出来ないことと、2004年から公認料が変わっておらずインフレを考慮すれば値上げは避けられない。) 提案は承認された。さらにS7共通3. 2項-国別ランキングでトップ2位までの国はエントリー費を直接FAIに振り込むこととなっている文言を、すべての国は主催者に振り込み、主催者が大会開始60日以前に大会公認料の110%をFAIに振り込むことに変更する提案は承認された。

6) S7共通12. 4項-カテ2大会の公認料に関して、公認料はパイロットのエントリー費の1. 5倍であるが、大会がマルチクラスであった場合は、最も高いエントリー費を基準とする文言を追加する提案は承認された。また12. 4項、後半に存在する「カテ2大会の主催者が参加選手全員のFAIスポーティングライセンスをチェックしていないと判断された場合、最初の違反ではCIVLから警告の文章をNAC宛に送り、それ以降の違反については財政的罰則を与えることとする; この罰則はその国からのそれ以降の公認申請料を2倍にする。」なる文言は、これまで実施されたことがないので削除する提案は承認された。

7) カテ2大会においては参加枠の25%を海外選手のために大会開始15日前まで確保しておく必要があるが、当該大会がCIVLカレンダーにかなり以前にアップされている場合にもこのまま適用するのはいかなるものかと言うことで、公認された期日によって確保しておかなければならない日数を以下のように変更する提案は承認された。

大会開始30~60日前に公認=>15日

61~90日前に公認=>30日

91~120日前に公認=>45日

121日以上前に公認=>60日

8) S7共通6. 4. 1項-ローカルルールの変更に関して、現行は、スチュワード、チームリーダーおよび陪審員による協議の後、大会委員長により公表されるとなっているのを、スチュワードとチームリーダーによる協議の後、陪審員による承認の後、大会委員長が公表するに変更する。提案は承認された。

9) カテ2大会において、コンプレイン、プロテスト、アピールの取扱いが明確でなかったため、これをS7共通の12. 7項に追加する提案。その内容は;

プロテストコミッティーは、必要となったときあるいは最初のタスクが行われる前に、大会委員長の責任の下に構成される。そのメンバーは大会委員長あるいは選手あるいは両方によって選出される。メンバー構成の最小単位は3人とし、メンバーが提起されたプロテストに関係している場合は、プロテストが審理されるまで、一時的にその機能を停止され、交代メンバーにとってかわられる。

さらにアピールに関しても以下のように追加された。

1. 大会終了後7日以内に大会を主催したNACに対してアピールする。

2. NACからの回答に納得しない、あるいは30日たっても回答がない場合はCIVL理事会にアピールを提出する。これには1000ユーロ(結果のいかんにかかわらず返済はしない)が必要。理事会は構成員3名の査問委員会を設置し30日以内に回答する。

3. 査問委員会の回答に不服あるいは30日以内に回答がない場合、スポーティングコード総則の6.5および6.6項に従ってCASIにアピールをすることが出来る。

また、コンプレイン、プロテストのタイム期限に関して

コンプレインは；

アキュラシーの場合、プロビが公表されてから1時間

XCの場合、プロビが公表されてから4時間（ただし公表が22：00以降となった場合は翌日の11：00以降とする）

プロテストは；

コンプレインに対する回答が公式掲示板に発表されてから4時間（ただし最終の2タスク/ラウンドに関しては1時間）

となり、承認された。

10) S7JとしてJury Guidelinesを追加する提案は承認された。

11) 現行のS7I (Guidelines and Templates)の6項にあるParticipant Incident PolicyをUnsporting behavior and MisconductとしてS7共通の12項として追加する提案は承認された。

12) S7D2.4項—現行では、記章（デルタ金賞とかアキュラシーダイヤモンドとか）はNACがFAIからロットで購入し、申請したパイロットに個別に渡しているが、これをNACの承認を得た上で、パイロット個人がFAIから購入できるシステムを追加する提案は承認された。

13) これまでのカテ2大会は例えばPGワールドカップのようなものから、かなりローカルなものまで幅広く、大会管理、情報伝達などピンキリであったので、カテ2大会の最低要求事項を決める提案は修正を加えて承認された。その要約は；

*英文のホームページ

*英文のローカルルール（テンプレートに即した）

*大会役員として大会委員長およびその主たる役割が安全責任であるセーフティディレクターは大会期間中、大会選手あるいはチームリーダーであってはならない。アキュラシーにおいてはジャッジングチームのメンバーはパイロットあるいはチームリーダーであってはならない。その他の役員は必要な時に、役員としての業務を代行できるものを手当てできるならばパイロットあるいはチームリーダーとなることは可能。

*大会委員長あるいは/およびセーフティディレクターは、入手可能な全選手のライブトラッカー、通信装備（個人および主催者が提供した）、GPS、個人所有携帯電話、ビーコンなどのリストを持っているべきである。

*最初のタスク前に、全体パイロットブリーフィング（全選手参加必須）を開催しなければならない。そこで最低限説明される事柄は

a) 大会の安全に関するすべての事柄

b) 連絡方法および帰着申告に関する事柄

c) タスクおよび/あるいはセーフティコミッティー、そして必要ならプロテストコミッティーの選抜

d) 大会に関するパラメーターの討議（XCのみ）

e) テイクオフ方法の討議

*タスクの決定

タスクの設定は大会委員長の責任で、大会委員長は全体パイロットブリーフィングにおいて選

抜かれた少なくとも3人からなるタスクおよび/あるいはセーフティコミッティーにより補佐される。

***結果**

大会の結果は毎日大会ホームページに公表される。アキュラシーにおいてはS7Cおよびローカルルールに従って各ラウンドごとに公表される。

14) S7D記録および記章に関する提案

1. 現在のS7D 3. 2. 1項において 記録飛行の種類としてストレート距離 (straight distance) があるが、これをフリー距離 (free distance) とする提案。これはよりイメージに近い呼び名にするため特に内容を変更することではない。

2. 現在の3. 3. 1項 (事前告知) において、「必要なオブザーバーが存在し、挑戦を適切に管理する調整がなされている場合は事前告知あるいは許可は必要ない。宣言記録はテイクオフ前に挑戦者のNACに電子メールあるいはその他の電子的方法により通知しなければならない。」となっているところを、「FAI役員が存在し挑戦を適切に管理する調整がなされている大会を除いてすべての記録挑戦には事前告知が必要である。挑戦者はテイクオフ前に挑戦者のNACに記録挑戦の宣言を電子メールあるいはその他の電子的方法により通知しなければならない。」に変更する。

3. 記録を打ち破ることはどんどん難しくなっている現状を考慮して、3. 2. 4. 4 (同等記録) として、これまでの記録と同じ記録を達成したパイロットは、同等記録を申請できる、を追加する。

以上は承認された。

15) これまで陪審員には日当が無かったが、これを改め、S7共通の11. 1. 6. 2項に「CIVLはカテ1大会の陪審員に対し予定されている競技日1日につき50ユーロを支払う責任を有する。」を追加する提案は承認された。

HG/PGXC関連

1) XC大会において (S7A) 現行では、同点となった場合にタイブレイクのルールが明記されている (同点となった場合は、それぞれの選手あるいはチームのタスクごとのランキングを合計して、数の小さい方を上位とする) が、昨年の大会においてこのルールを適用せずに同点のまま同順位としたこともあるので、このルールを削除して、同点を認めることとする提案は承認された。

2) S7Aの6.3項にLIVE TRACKERの返却に関してのペナルティー (下記) を設ける提案は修正され、6. 3項に「着陸後できるだけ早く本部にLIVETRACKERを戻さないことは非スポーツマン行動となり、大会委員長は適切な罰則を科すことがある。」を追加することとして承認された。

3) XC大会におけるレストデイに関して (S7A3. 9項)、アキュラシー大会 (S7C3. 7項) に現存する、「レストデイは主催者によりパイロット、チームリーダーおよびFAI役員に対していかなる義務も負わされないものとする」を追加する提案は承認された。

4) これはスコアリング (GAPとか) に関するS7Fを改定する非常に興味ある提案。

承認された内容の要約は：

1. 最終グライド減速因子に関して、ここ何年も使用されていないコンセプトなので、これに関連する文言を全て削除する。

2. ターンポイント（スタートを含む）の取る方向（エンターかエグジットか）はF Sが自動的に判断しているので、タスクセッターの思いとは異なる可能性があるので、今後指定しないこととする。

3. タスク距離の算出方法が明確ではなかったので明確にする。

スピードポイント計算の距離は、スタートパイロン（S S S）からエンドパイロン（E S S）までの最短距離（スピードセクション距離）とし、タスク距離はスピードセクション距離にテイクオフからスタートパイロンまでの最短距離とエンドパイロンからゴールまでの最短距離を加えたもの。タスク距離にはテイクオフシリンダーの半径も含まれるように変更される。

4. マルチゲートのレースおよびエラプスタイムタスクにおけるリスタートの明確化。リスタートはスタート後、最初のターンポイントを取るまでは可能とする。

5. （PGにのみ適用）リーディングウエイトを、ゴール率に関係なく一定（ワールドカップで採用している16.2%）とする。

6. これまでは各タスクの点数を小数点以下第1位を四捨五入して整数で出していたが、これを各タスクでは小数点以下第2位を四捨五入し小数点以下第1位までとし、各タスクの点数を合計した大会最終の点数のみを小数点以下第1位を四捨五入し整数で表すこととする。

7. （PGにのみ適用）タイムポイント（トップゴール者に比較して遅くなるほどタイムポイントが減少するが減少の仕方がトップに近接しているものの方が率が大きくなる現状）に関して、ワールドカップで採用している減少率がより直線に近いものを採用する。

8. （PGのみに適用）リーディングウエイトをワールドカップ方式（スピードセクションの最初と最後の近辺では、ウエイトが小さく、スピードセクションの中央部分で大きくなる）を採用する。

9. タスクストップとなった場合のスコアに関して、HGの現状では、ゴール者が出るかあるいは、ストップまでの時間が女子選手権では60分以上、女子以外の選手権では90分以上でタスクは成立。PGでは60分以上で成立となっているがこれを、ノミナル時間の50%（ただし最大でも60分）経過すれば成立するに変更する。この変更はとりあえずPGに適用し、HG委員会と協議して理事会はHGにも適用するかどうかを決定する。また、ストップタスクの場合、タスクストップとなった時刻にちょうどスピードセクションエンド（E S S）にいた選手から差し引く時間得点（タスクストップ時刻にわずかにE S S手前にいた選手と丁度E S Sに到達していた選手のタスク得点との間にギャップが生じる不具合を解消するための点数）を飛行距離に応じて距離得点に再配分する（タスクで得られる得点はその分だけ少なくなってしまうことを解消する）。

10. 現在、FTVを計算するのに、各タスクにおいて得られ得る最大得点と比較しているがこれを各タスクのトップの得点と比較することに変更する（ワールドカップでは数年前から採用しており、2019年のPG世界選手権でも採用されている）。

5) ブラジルからの提案—FAI公認大会はピンキリなので、大会後に全選手から大会の評価をしてもらおう提案は修正されて、理事会に一任することとなった。

HG関連

1) タンデム技能証に関して、非営利との注釈を追加して（FAIの顧問弁護士も問題はないとのこと）承認された。

2) 世界およびヨーロッパ選手権においてクラス1, 5、女子を同時に行はなければならないと

する提案であったが、同時に行うことが出来ると修正され、またこのいかなる組み合わせの選手権を立候補する場合、大会は奇数年に行うことが出来る、を追加して承認された。

3) 現在S7共通の5.2.4項にあるHGの視認性に関する文言を、S7共通から削除し、少し文言を変え、S7Aの8.2.5.1として「クラス1,5およびスポーツにおいて視認性を改善するために、すべてのライダーは視認性の特に高いリーディングエッジあるいは高コントラストのノーズコーンを備えていなければならない。最も視認性の高い色は蛍光イエロー、オレンジ、グリーンである。」を追加する案は承認された。

4) 現在のS7A 3.3.6項のプッシュシステムに、プッシュされた選手は30秒の間にテイクオフするかを決定し、その後の30秒でテイクオフを完了しなければならない。となっているところを、その後の連続した（この意味するところは、連続して30秒間テイクオフできるコンディションが続いたら、その30秒間と言うこと）30秒間にテイクオフを完了しなければならないに変更する提案は承認された。

5) 2024年世界選手権クラス5を足尾エリアで開催するべく2022年のCIVL総会で立候補するための準備を進めることをHG委員会で表明した。

PGXC関連

1) タンデム技能証に関して、非営利との注釈を追加して（FAIの顧問弁護士も問題はないとのこと）承認された。

2) 現在のS7A 2.2項の参加資格において、ヨーロッパ選手権ではヨーロッパWPRSランキングでトップ500に入っているか、FAI公認大会のどれか1つで最低でも20ポイントを獲得していることとなっているのを、ヨーロッパWPRSランキングでトップ500に入っているか、FAI公認大会のどれか1つで最低でも40ポイントを獲得していることと変更する提案は承認された。

3) ブルガリアからのリーディングのウェイトに関する提案で、タスクごとにリーディングのウェイトを決められるようにすると言う提案であったが、スコアリング部会への提案とし、1年もんだのち次回総会で取り上げることで今回は取り下げることとなった。

4) ブラジルからの、各タスクの1,2位と15位までの中のランダム抽出で1名計3名のライダーのラインチェックを行うと言う提案に関しては、S7A 8.1.4項のトップに、「主催者は機体の耐空性を確認するあらゆる手段を用意しておかななければならない。」を追加することで取り下げられた。

5) CCCクラスに関して、認証取得した証明書を大会開始114日以前にCIVLに提出されていることとなった（これまでは大会開始90日以前に必要な資料が試験機関に提出され認証取得していることであった）。

PGアキュラシー関連

1) S7Cの改定案が承認された。その内容は

3.2.6に「コンディションの変化（主に風向き）により離陸方法を変える（他のエリアに移動、あるいはトーイングで離陸）ことになった場合、新たなラウンドとしてスタート順の1番からスタートする。また途中で中断したラウンドが再開できるコンディションになったら、中断した選手から再スタートする。」を追加。

3.6.2（ビデオの要求）をカテ2大会でも必須とする。

その内容は「パイロットの最初の接地点の映像が取れるように十分ターゲットの近く低いアングルに配置すること。」

4. 2 ウインチの場合のターゲットの場所 に文言「ターゲットはラウンド間で移動することが出来るが、ラウンドの途中ではできない。」を追加

4. 4. 1 (ターゲットのサイズ)

カテ1では2m。カテ2では2mあるは、5mあるいは10mとし、ローカルルールに明記する。

6. 1 (適用される罰則) に「チーフジャッジはターゲットエリアにおいて危険なフライトあるいはスポーツマンにあるまじき行為に対して警告を与えることが出来る。」なる文言を追加。

6. 2 (罰則の適用) に「チーフジャッジはターゲットエリアにおいて危険なフライトあるいはスポーツマンにあるまじき行為に対して警告を与えるにあたっては一貫していなければならない。」を追加。

7. 1 (コンプレイン) に「ジャッジングに関するもの以外に対するコンプレインは大会委員長に提起することが出来る。」を追加。

8. 3. 1 (ハーネス) の項に、LTF09の後にEN1651/2018以降を追加。

9. 2. 1 (カテ2でのジャッジ) においてこれまでは、記録を承認するには少なくとも1人のカテ1ジャッジが存在しなければならない。となっていたが、これに記章の承認も追加し、記録および記章を承認するには、と改定する。

9. 5 (カテ2大会のジャッジ) に関して、以下の経歴を持っていないとあるところを、以下の経歴を持っているべきであるに変更。

その他

1) 選手権の開催地決定

・第5回PGパンアメリカン選手権は2022年1月21～29日の日程でブラジルのゴヴェルナド・ヴァラダレスで開催される。ただし、テスト大会を2年前の2020年4月に行う(2020年4月にプレワールドカップを大々的に開催するし、オーガナイザーも同じであるので、テスト大会として十分その目的は果たせるので、2021年にさらに同規模の大会をする意味もないとの判断)。

・HGヨーロッパ選手権、PGXCヨーロッパ選手権、PGアキュラシーヨーロッパ選手権、PGアクトバット世界選手権はトルコのWAGがキャンセルとなったためオープンとし、通常ではない(本来はこのCIVL総会で決定)スケジュールで次回総会において決定する。

2) 各賞の推薦

・FAI AIR SPORT メダルは

第22回HGクラス1世界選手権(イタリア)

第16回PGXC世界選手権(北マケドニア)

第10回PGアキュラシー世界選手権(セルビア)の各主催者に贈られる。

その他は今回推薦が無かった。

3) 次期総会開催場所はセルビアのベオグラードで2月6, 7日の予定で開催されることとなった。